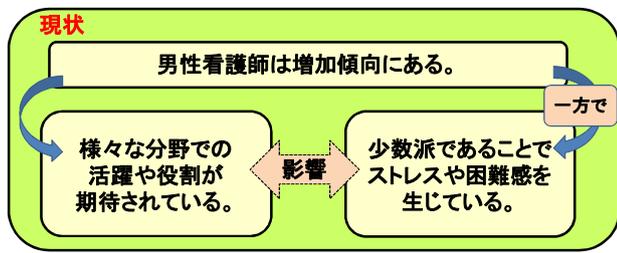


# 研究目的



## 疑問

男性看護師の増加により困難感が解消される可能性がある。男性看護師が増加することに対して男性看護師はどのような認識を持っているのだろうか？

## 目的

男性看護師が増加することに対する男性看護師の認識を明らかにする。

# 研究方法

## 対象

全国の150床以上の病院で、複数(2診療科以上)の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師(准看護師を含む)8,539名。

## 調査方法

平成24年12月～平成25年4月に、無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し、回収は回答者本人による郵送法とした。質問内容は男性看護師が増加することに対する自身の考えについて自由記述で回答を求めた。

## 分析方法

自由記述について類似性から内容を整理しカテゴリー化した。

## 倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

# 研究結果

## 回答者

回答者は3,713名(回収率43.5%)で、うち自由記述記載者は2,270名であった。

## 分析結果

男性看護師が増加することに対する男性看護師の認識として46の《サブカテゴリー》から、14の【カテゴリー】に分類された。以下に結果を示す。

### 男性看護師が増加することに対して肯定的な内容

【カテゴリー】	《サブカテゴリー》
男性看護師に期待されている役割が発揮できる	体力が必要な看護において必要である
	暴言・パワハラなどの対応において必要である
	男性ならではの視点が必要である
	男性ならではの優しさや冷静さが必要である
	機器の扱いにおいては男性の方が得意である
組織における男性看護師の需要がある	離職や休職が少ないことで安定した労働力の確保に繋がる
	部署の特色において男性が必要である
	男性の管理者が必要である
患者にとって有益である	男性患者の羞恥心を伴うケアにおいて必要である
	患者にとって男性看護師の方が受け入れやすいこともある
	性別により看護師の選択が行える患者のニーズへの対応が必要である
	安定した労働力の確保により質の高い看護に繋がる
男性看護師自身にとって有益である	体力が必要な看護において患者の安心に繋がる
	男性看護師のモデルとして必要である
	同性が多くなり働きやすい環境への変化に繋がる
	同性がいる事で安心感に繋がる
	男性が発言しやすくなる
職場環境の改善に繋がる	少数派であることに伴う弊害や偏見が払拭される
	女性社会のために起きる弊害や偏見が払拭される
看護師の社会的な認識が高まる	男性看護師の認識が高まり患者対応がしやすくなる
	男性看護師の社会的地位の向上に繋がる
	職場の雰囲気や環境面での改善に繋がる
	男性用の施設や環境面での改善に繋がる
	看護師全体の社会的地位が向上する
	男性が看護師を目指しやすくなる

### 男性看護師が増加することに対して否定的な内容

【カテゴリー】	《サブカテゴリー》
患者からの需要が少ない	看護は女性の方が適している
	患者にとって女性看護師の方が受け入れやすい
	女性患者にとって男性看護師は受け入れられにくい
組織にとって問題が生じやすい	勤務体制上の問題が生じる
	男性看護師の需要は部署により限られる
	職場の雰囲気への悪影響が生じる
	看護の質の低下に繋がる
男性が就く職業として推奨できない	女性社会での苦勞があるため薦められない
	給与面での改善がないと薦められない
男性看護師にとって不利益が生じる	増加すると希少価値がなくなる

### 肯定でも否定でもない内容

【カテゴリー】	《サブカテゴリー》
増加するには条件が必要である	社会のニーズがあれば増加する
	適性の無い看護師が増加することへの懸念がある
性差を考慮する必要はない	看護師の男女比のバランスが必要である
	増加する事でメリット、デメリットが共に存在する
	看護において性別は関係ない
増加する事で現状に変化はない	看護において性別を考慮するべきではない
	看護不足の解消のため看護師自体の増加を期待する
現状で問題はない	女性に限定された仕事ではない
	男性看護師が増加することでのメリット・必要性を感じない
	増加することで現状に変化はもたらさない
	現状のバランスで問題はない

# まとめ

## 男性看護師が増加することに対する男性看護師の認識

